



カフェ ラ・ボエム下北沢

決算説明会資料

2025年12月期

株式会社グローバルダイニング（東証スタンダード 7625）

2026/2/19

Contents

■ 執行役員 CFO 中澤 海輝

- I. 2025年度業績サマリー P 3~ 8
- II. 2026年度事業計画サマリー P 9~11

■ 取締役 副社長 小林 庸磨

- III. 2025年度の概況 P 12~19

■ 代表取締役社長 長谷川 耕造

- IV. 2026年度の取り組み P 20~24
- 株主還元について

【参考資料】

- (国内) 2025年売上高前年対比率 月次推移 26
- (国内) 2025年客数・客単価の前年対比率 月次推移 27
- (連結) 展開コンセプト 28
- (連結) 売上高・営業利益推移 29
- (国内) コンセプト別 売上高 5期推移 30
- (国内) コンセプト別 営業利益率 5期推移 31
- 2025年赤字店舗一覧 32
- 会社概要 33
- 注意事項 34

I . 2025年度業績サマリー

2025年12月期ハイライト

- **売上高136億円（前年比+15.9%）営業利益6億88百万円、共に
期初計画を上回って着地**
- **国内既存店は売上高前年比+6.3%、客数+2.2%、客単価+4.0%、
営業利益率11.1%達成と堅調に推移**
- **米国は新店が好スタートを切り、売上高前年比+50.1%増**
年初の大規模山火事という逆風を跳ね除けて期初計画を上回る増収実現
当期純損失は2億10百万円から86百万円と1億24百万円赤字縮小
- **営業C F 13億52百万円と本業による高いキャッシュ創出力を実現**
- **17期振りに1株当たり5円の配当（復配）実施を決定**

(連結) 2025年12月期 業績概要

連結

(単位：百万円)	2025年 通期実績	2024年 通期実績	前年対比	2025年 通期計画	計画対比
売上高	13,660	11,788	+15.9%	13,480	+1.3%
売上原価	11,639	9,878	+17.8%	11,601	+0.3%
売上原価率	85.2%	83.8%	+1.4pt	86.1%	▲0.9pt
販管費	1,332	1,156	+15.2%	1,252	+6.4%
販管費率	9.8%	9.8%	▲0.1pt	9.3%	+0.5pt
営業利益	688	753	▲8.6%	625	+9.9%
営業利益率	5.0%	6.4%	▲1.4pt	4.6%	+0.4pt
EBITDA ※	1,121	947	+18.4%	1,060	+5.7%
経常利益	660	751	▲12.2%	622	+6.1%
当期純利益	307	514	▲40.2%	366	▲15.9%
為替レート (USD/JPY)	156.56円	158.18円		155.00円	

■売上高 前年対比+15.9%

- ・新店開業による増収
国内「那須パラダイスヴィレッジ」3月19日グランドOPEN
「カフェ ラ・ボエム下北沢」10月13日グランドOPEN
米国「Settecento/セッテチェント」1月23日グランドOPEN
- ・国内既存店
料理・サービスの品質向上とメニュー & 価格改定の浸透により、客数・客単価が伸び増収

■営業利益率 前年対比で-1.4pt

新店開業による人員増や開業準備費用の計上による経費増の影響

■EBITDA 前年対比+18.4%

本業による稼ぐ力の向上

■当期純利益

業績好調による繰越欠損金解消に伴い、税金費用が増加

※EBITDAは、営業利益に減価償却費を加えて算出しております。

2025年12月期 会社別業績概要

国内

(単位：百万円)	2025年 通期実績	2024年 通期実績	前年対比
売上高	11,149	10,115	+10.2%
営業利益	746	971	▲23.1%
営業利益率	6.7%	9.6%	▲2.9pt
EBITDA※	998	1,069	▲6.6%
当期純利益	394	725	▲45.6%

米国子会社

(単位：百万円)	2025年 通期実績	2024年 通期実績	前年対比
売上高	2,510	1,673	+50.1%
営業利益	▲58	▲218	-
営業利益率	▲2.3%	▲13.0%	+10.7pt
EBITDA※	122	▲122	-
当期純利益	▲86	▲210	-

為替レート
(USD/JPY)

156.56円

158.18円

※上記は連結修正前の会社別数値です。

※EBITDAは、営業利益に減価償却費を加えて算出しております。

■売上高 前年対比+10.2% (既存店+6.3%)

- ・新店開業による増収、及び既存店好調
- ・ラ・ボエム (前年同期比+11.2%)
- ・ゼスト (同+13.9%)

■営業利益率 -2.9pt

「那須パラダイスヴィレッジ」開店による人員増や開業準備費用等による経費増の影響

■売上高 前年対比+50.1% (既存店▲6.1%)

- ・新店「セッテチェント」の立ち上げが順調に推移したため、米国全店では増収
- ・既存店2店舗は山火事（ロサンゼルス近郊）の影響で減収

■営業利益率 +10.7pt

セッテチェントの売上好調と既存店は守りの営業でコスト管理。
セッテチェントは自家製パスタ、ピザ生地を使用しておりキッチン原価率が既存店に比べて約5pt低い為全体の営業利益率改善に貢献

■EBITDA 黒字転換

(連結) 貸借対照表の概要

(単位：百万円)	当期末 2025年12月末	前期末 2024年12月末	増減
資産合計	11,166	10,234	+931
流動資産	2,138	2,043	+94
（内 現預金）	(890)	(788)	(+101)
固定資産	9,027	8,191	+836
負債合計	5,533	4,900	+633
（内 有利子負債）	(2,239)	(2,360)	(▲121)
流動負債	2,200	1,833	+367
固定負債	3,332	3,066	+266
純資産合計	5,632	5,334	+298
資本金	49	46	+2
資本剰余金	2,149	2,146	+2
利益剰余金	2,939	2,631	+307
為替換算調整勘定	441	460	▲19
その他	53	48	+4
負債・純資産合計	11,166	10,234	+931
流動比率	97.2%	111.4%	▲14.2pt
自己資本比率	50.2%	51.9%	▲1.6pt

■ 流動資産・固定資産

「現預金」

営業黒字や設備資金借入による増加の他、有利子負債の返済や新店設備投資による支出で**1億1百万円増加**

「建物・構築物・工具器具備品」

国内「那須パラダイスヴィレッジ」の設備工事等で**8億22百万円増加**

■ 流動負債・固定負債

「未払税金（流動）」

未払消費税と未払法人税で**3億60百万円増加**

「資産除去債務（固定）」

建築コスト上昇に伴い、国内全店の資産除去債務の見積額を見直したことにより**4億58百万円増加**

■ 純資産

当期純利益により**利益剰余金が増加**

(連結) キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)	2025年 実績	2024年 実績	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	1,352	643	+709
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,107	▲1,676	+568
財務活動による キャッシュ・フロー	▲141	600	▲741
現金及び現金同等物 に係る換算差額	▲3	41	▲44
現金及び現金同等物 の増減額	100	▲391	+491
現金及び現金同等物 の期首残高	788	1,180	▲391
現金及び現金同等物 の期末残高	889	788	+100

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

下記の内訳により13億52百万円のキャッシュイン

(主な内訳)

税金等調整前当期純利益	: +579
減価償却費	: +432
未払消費税増減額	: +145
未払費用増減額	: +109

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

国内「那須パラダイスヴィレッジ」および
米国「セッテチェント」の工事支払等で
11億7百万円のキャッシュアウト

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

設備資金の為の新規借入はあったが、既存銀行借入金
の通常返済により1億41百万円のキャッシュアウト

Ⅱ. 2026年度事業計画サマリー

(連結) 2026年12月期 通期計画

連結

(単位：百万円)	2026年 通期計画	2025年 通期実績	増減
売上高	14,032	13,660	+2.7%
売上原価	11,797	11,639	+1.4%
売上原価率	84.1%	85.2%	▲1.1pt
販管費	1,285	1,332	▲3.5%
販管费率	9.2%	9.8%	▲0.6pt
営業利益	948	688	+37.9%
営業利益率	6.8%	5.0%	+1.7pt
EBITDA※	1,415	1,121	+26.2%
経常利益	962	660	+45.8%
当期純利益	689	307	+124.0%
為替レート (USD/JPY)	150.00円(予想)	156.56円(実績)	

※EBITDAは、営業利益に減価償却費を加えて算出しております。

2026年のハイライト

- 売上高 140億円 (+2.7%)
 - 営業利益率 6.8% (+1.7pt)
 - 当期純利益 6億89百万円 (+124%)
- ・ 現時点で2026年内に新店出店計画なし
 - ・ 2026年は売上を増やしつつ利益率を改善し、しっかりとキャッシュを産み出す力を蓄える
 - ・ 2027年以降の更なる成長投資に向けて、体力向上を目指す

2026年は以下3つの課題に重点的に取り組む

- ✓ 那須パラダイスヴィレッジの進歩
- ✓ 国内赤字店舗の改善
- ✓ 米国子会社の黒字化

2026年12月期 会社別通期計画

国内

(単位：百万円)	2026年 通期計画	2025年 通期実績	増減
売上高	11,607	11,149	+4.1%
営業利益	881	746	+18.1%
営業利益率	7.6%	6.7%	+0.9pt
EBITDA※	1,179	998	+18.1%
当期純利益	631	394	+60.1%

■売上高

- 既存店は料理・サービスの品質の更なる向上を図り、好調な売上増のトレンドを継続
- カフェ ラ・ボエム下北沢は2026年通年営業により売上増
- 那須パラダイスヴィレッジは保守的に売上4.5億円の見積もり

■営業利益

- 海外購買を継続して仕入れ原価を最適化
- 継続的なオペレーション進化による人件費の最適化
- 2026年は那須パラダイスヴィレッジの開業準備費用が発生しないため経費減

米国子会社

(単位：百万円)	2026年 通期計画	2025年 通期実績	増減
売上高	2,425	2,510	▲3.4%
営業利益	66	▲58	-
営業利益率	2.8%	▲2.3%	+5.1pt
EBITDA※	235	122	+92.3%
当期純利益	57	▲86	-

■売上高

- 恒久的な屋外営業許可取得に必要な改善工事を実施予定。工事期間中は屋外営業休業、売上はUS\$ベースで前年比0.6%増と保守的に見積もる。円ベースでは為替に影響により前年比3.4%減（1\$=150円予想）

工事期間（予定）：ラ・ボエム - 3ヶ月、セッテチエント - 1ヶ月

■営業利益

- 新組織体制によるオペレーション見直しにより、人件費と原価を最適化。またコストコントロール強化により投資対効果が低い経費を削減

■当期純利益黒字化

為替レート
(USD/JPY)

150.00円(予想)

156.56円(実績)

※EBITDAは、営業利益に減価償却費を加えて算出しております。

Ⅲ. 2025年度の概況

出退店等

2025年

●出店

1月23日グランドオープン 『Settecento (セッテチェント)』 (ダウンタウンLA)

3月19日グランドオープン 『那須パラダイスヴィレッジ』

10月13日グランドオープン 『カフェ ラ・ボエム下北沢』 **新**

(参考) Settecento及び那須パラダイスヴィレッジは2024年12月23日ソフトオープン済

●退店 なし

期末店舗数 国内45 米国3 計48店舗
期末店舗数 香港2 上海1 計 3店舗



カフェ ラ・ボエム下北沢



那須パラダイスヴィレッジ



Settecento (セッテチェント)

【2025年の取り組み】国内1 ～成長投資～

『那須パラダイスヴィレッジ』（1Fフードコート13業態、2Fホテル37室） という“新しい商業施設パッケージ”の構築と認知度向上に注力

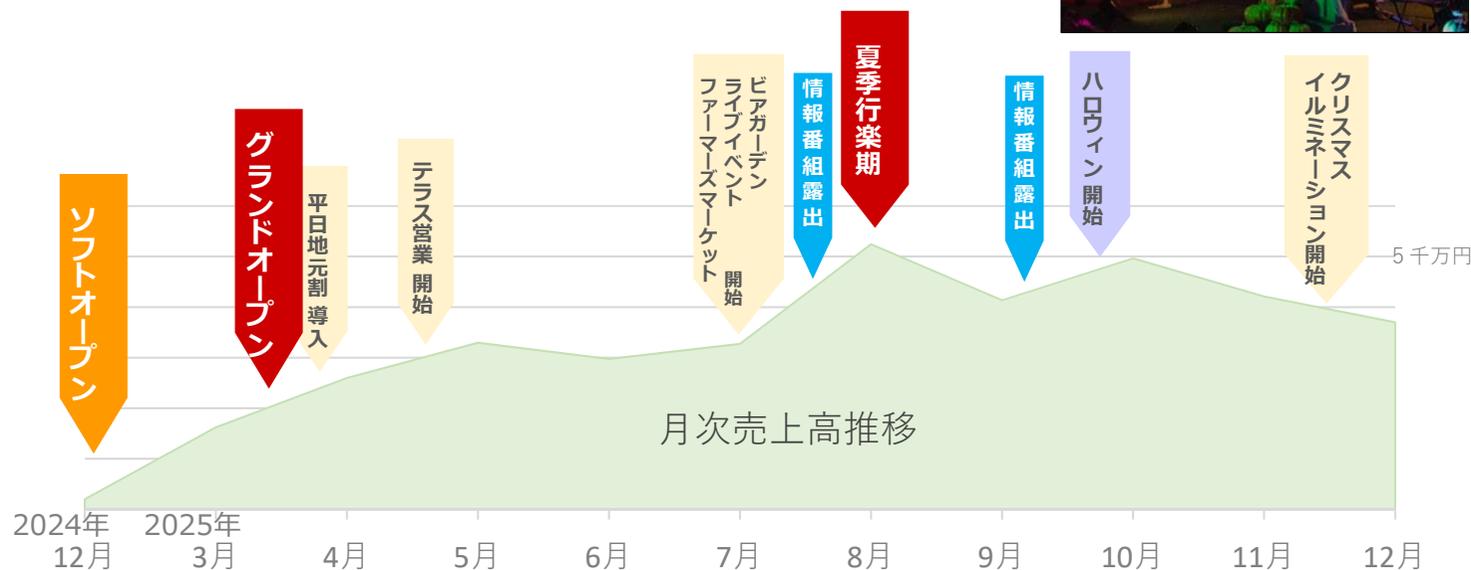
◆パッケージ構築（施設の魅力・存在感UP）

- 工事の遅れを考慮し、段階的な施設造り&開業を選択
- 営業しながらメニュー・空間の充実、オペレーション改善を同時進行
- 各種イベントや館内装飾を実施
（音楽イベント、ファーマーズマーケット、ハロウィン、クリスマスイルミネーション等）



◆認知度向上

- 近隣住民へのPR・販促活動（平日地元割15%off開始）
- TV（情報番組）・雑誌等への露出
- 那須ガーデンアウトレットからの導線改善（案内板設置等）



【2025年の取り組み】国内2 ～大都市圏での出店～

- 2025年10月13日『カフェ ラ・ボエム下北沢』グランドオープン



所在地：東京都世田谷区代沢2-29-11
パークアクシス下北沢1F（茶沢通り沿い）
施設規模：店舗面積 約46坪
席数：店内&テラス合わせて80席
月商：想定1,300万円 → 12月実績1,308万円と順調
特徴：内装は木の温かみ、窓を大きく配した明るい造りに
テラス席はペットOKスペース
薪で焼き上げるピッツァと自家焙煎コーヒーが楽しめる



【2025年の取り組み】国内3 ～既存店業績の下支え～

● 競争力強化

✓ 商品力：サプライチェーンの進化 ～仕入の最適化と差別化～

- 物価上昇、輸入食材高騰に対応するため海外生産者と直接交渉・契約
- コスト低減の他、品質へのこだわりや当社のみでしか味わえない差別化商品調達

(実績) ・パスタ、ワイン、オリーブオイル、コーヒー豆、マサ粉(タコス用)、エビ等

✓ 品質・おいしさを追求した設備導入

- コーヒー豆を自家焙煎（店内焙煎機設置）
- 薪火利用のピザ窯（那須PV・都内2店舗）

那須パラダイスヴィレッジ(PV)
ラ・ボエムで順次導入

✓ ホスピタリティと料理の品質向上

- 「笑顔」「感動」の創出に的を絞った行動指標（KPI）の設定と徹底
- 月次で評価し、管理職給与にも反映、サービスレベルの底上げ推進
- 月次コンセプト試食会、料理コンテスト

2025年（国内）業態別業績

(単位：百万円)			2025	2024	前年
			実績	実績	同期比
			(利益率)	(利益率)	
ラ・ボエム	15 店舗 (前年+1)	売上高	3,221	2,898	+11.2%
		営業利益	627 19.5%	508 17.5%	+2.0pt
ゼスト (タコファナ)	5 店舗	売上高	499	438	+13.9%
		営業利益	64 13.0%	50 11.5%	+1.5pt
モンズーン カフェ	9 店舗	売上高	2,103	2,048	+2.6%
		営業利益	339 16.1%	332 16.2%	▲0.1pt
権八	7 店舗	売上高	3,468	3,294	+5.3%
		営業利益	953 27.5%	860 26.1%	+1.4pt
Dinner	5 店舗	売上高	1,046	994	+5.3%
		営業利益	129 12.4%	112 11.3%	+1.1pt
那須フードコート その他	3 店舗	売上高	443	440	+0.8%
		営業利益	29 6.7%	36 8.2%	▲1.5pt
那須パラダイス ヴィレッジ	1 店舗	売上高	366	0	-
		営業利益	▲420 -	▲78 -	-
本部販管費	-	売上高	-	-	-
		営業利益	▲977 -	▲850 -	-
合計	45 店舗 (前年+1)	売上高	11,149	10,115	+10.2%
		営業利益	746 6.7%	971 9.6%	▲2.9pt

※那須フードコート=那須FC（フードコロシウム）：那須ガーデンアウトレット内の店舗

※那須PV：那須パラダイスヴィレッジ（新店）

（注）フランチャイズ店は上記店舗数に含めておりません。

■ラ・ボエム

浜松町、銀座、白金が好調。ワインやオリーブ油等の直輸入食材の拡大により原材料費が低減し利益率2ポイント増加。

■ゼスト

小型店のタコファナティコが引き続き好調。既存業態のゼストも人材の底上げやメニュー改訂により増収増益。

■モンズーン

売上は増加したものの、猛暑の影響での野菜類の高騰や輸入食材の高騰等の影響を受け、減益。

■権八

西麻布やお台場など、インバウンドが引き続き堅調。インバウンドの影響の無い住宅立地でも好調で営業利益率27.5%とさらに伸ばし、全体の業績を牽引。

■Dinner（ディナー）店

エンターテインメント性の高いタブローズラウンジやリグニスが好調。タブローズとステラートの収益性が課題。

■那須FC&那須PV&その他

新店那須PVが3月グランドオープンで増収、出店費用計上で大きく減益。

■本部販管費

賃上げによる労務費増加と全店キャッシュレス決済による信販料増加。

米国子会社（カリフォルニア州）

2025年は経済環境暗雲でスタートも、下期では営業利益黒字化

1月：大規模山火事発生

6月：ロサンゼルスダウンタウン地区で夜間外出禁止令発令（6/10～6/17早朝）

- **既存店は厳しい状況から復活、減収だが売上総利益ベースでは増益**
 - ✓ 『1 2 1 2』（サンタモニカ地区）は火災現場から近く、守りの営業に注力
 - ✓ 『La Boheme』（ウエストハリウッド地区）への影響は1月のみ、減収は最小限に留まる
- **15年振りの新規出店『Settecento(セッテチェント)』1月23日グランドオープン**
 - ✓ イタリア輸入小麦の手作りパスタ・ピザ、ガーデンダイニングが好評
 - ✓ オープニングパーティー・SNS等で話題となり、期初計画を超えて好調に推移
- **人材採用・教育の徹底**
 - ✓ 営業力強化に向けた採用と教育によって戦えるチームを構築

2025年（米国子会社）業態別業績

(単位：百万円)		2025 実績	(利益率)	2024 実績	(利益率)	前年 同期比
ラ・ボエム	売上高	814		842		▲3.2%
	売上総利益	124	15.3%	103	12.2%	+3.0pt
1212	売上高	750		825		▲9.1%
	売上総利益	36	4.9%	10	1.3%	+3.6pt
Settecento (新店舗)	売上高	945		5		-
	売上総利益	54	-	▲110	-	-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲273	-	▲220	-	-
合計	売上高	2,510		1,673		+50.1%
	営業利益	▲58	▲2.3%	▲218	▲13.0%	+10.7pt
為替レート(USD/JPY)		156.56円		158.18円		

【参考】 (単位：千USドル)		2025 実績	(利益率)	2024 実績	(利益率)	前年 同期比
ラ・ボエム	売上高	5,205		5,323		▲2.2%
	売上総利益	795	15.3%	651	12.2%	+3.0pt
1212	売上高	4,792		5,217		▲8.2%
	売上総利益	233	4.9%	67	1.3%	+3.6pt
Settecento (新店舗)	売上高	6,037		35		-
	売上総利益	346	-	▲700	-	-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲1,750	-	▲1,396	-	-
合計	売上高	16,035		10,577		+51.6%
	営業利益	▲375	▲2.3%	▲1,378	▲13.0%	+10.7pt

※為替の影響を排除したドルベースの業績

新店好調で50.1%増収、営業損失は大幅縮小

■ラ・ボエム ※ワシントン州地区

1月は山火事の影響があったが、その後は順調に回復。売上は届かなかったものの、メニューやシフトの見直しにより利益では3ポイント改善。

■1212 (twelve twelve) ※カリフォルニア州地区

山火事の被害が一番大きく影響し大幅な減収となったが、メニューやシフトの見直しにより営業利益率は3.6ポイント改善。

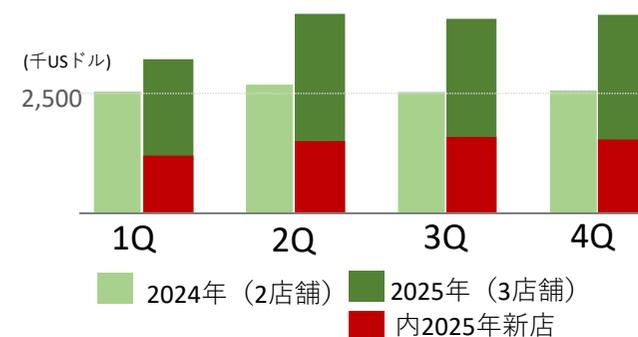
■セツテチェント ※ワシントン州地区

地元経済誌での評価やSNSにより、開店当初から売上は順調に推移。開店前後のトレーニングに伴う材料費や人件費がかさんだが、後半になるに連れてオペレーションも改善して黒字化達成。

■本部販管費

セツテチェントオープンによる信販料の増加

米国四半期売上高推移（ドルベース）



IV. 2026年度の取り組み

【2026年の取り組み】国内1

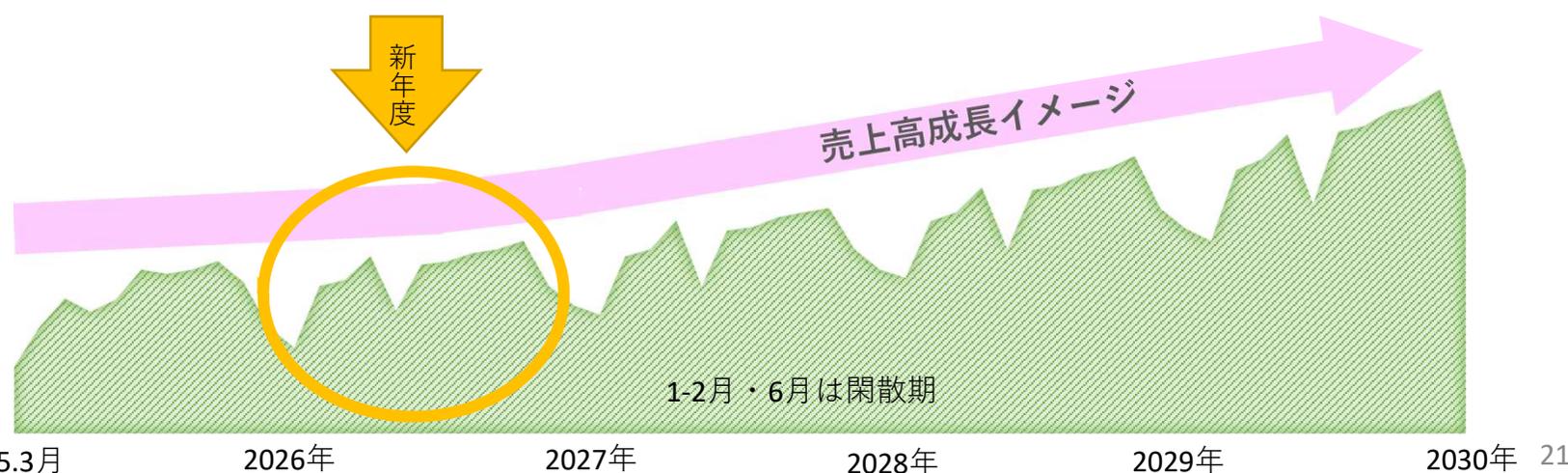
那須パラダイスヴィレッジ（新業態）の進捗と展望

● 2025年～2026年は「体験価値」を創造するソフトビルディング期の渦中

- ✓ 商圏内での認知度向上と、リピートを生み出すサービス・コンテンツ開発に注力
⇒商圏50kmをターゲット：地域密着型による安定稼働実現のため
 - ・ ホテル稼働率アップ施策（愛犬と一緒に宿泊できるプランを2月よりスタート）
 - ・ 非日常性や感動体験を届けるイベント・空間演出を絶え間なく提供
- ✓ 投資フェーズ渦中だが売上高は着実に右肩上がりを計画

● 中長期視点での事業の立上げと収益化（地域に不可欠なランドマークの創造）

- ✓ 那須エリアにおける独自のポジション確立を優先
- ✓ 顧客満足度の最大化が、将来の安定したキャッシュフローの基盤となる
- ✓ ブランドの浸透と共に、2030年まで段階的なフェーズ移行&持続的な収益成長を企図



【2026年の取り組み】国内2

収益性向上と今後の新店投資

● 赤字店の改善

- ✓ 代官山タブローズ・白金ステラートの業績改善
 - ・ 人材育成、メニュー、プロモーションの強化で黒字化を目指す
- ✓ 東郷町2店舗（ラ・ボエム&モンズーンカフェ）は2026年1月に閉店

● 新店出店計画

- ✓ 新店の設計・工事に着手、2027年度たまプラーザに2店舗を開業予定
- ✓ 今後も每期、都内での新店出店（既存業態・新業態開発）に意欲的に取り組む

● 成長のための業態開発推進

- ✓ 既存店のマイナーチェンジ（ノンアルコール主流のロードサイド型業態）
- ✓ 多店舗展開可能な中小型業態

米国子会社（カリフォルニア州）

通期で黒字化達成を目指す

- **役員交代 CEO・CFOは本社役員が兼務**
 - ✓ 管理体制を強化し、着実な収益化と次の成長フェーズへの移行を推進する
 - ✓ 本社機能（子会社に不足がちな専門知見）を投入
- **店舗マネジメント体制の見直し**
 - ✓ 新ポジション設置や人事評価の整備
 - ✓ 業務分担の明確化による人件費合理化推進
- **恒久的な屋外営業のための改善工事を実施**
 - ✓ ラ・ボエム：工事中はガーデンパティオを3ヶ月閉鎖予定（着工時期調整中）
 - ✓ セツテチェント：工事中はガーデンパティオを1ヶ月閉鎖し、上半期中に実施予定

【株主還元について】

● 株主還元の考え方

- ✓ 1株につき5円の配当実施（17期振りに復配実現）
- ✓ 安定配当を継続する方針（2026年度の配当予想：1株当たり5円の期末配当）
- ✓ 配当性向についても重要指標と認識、複合施設の成長を見ながら還元率を検討

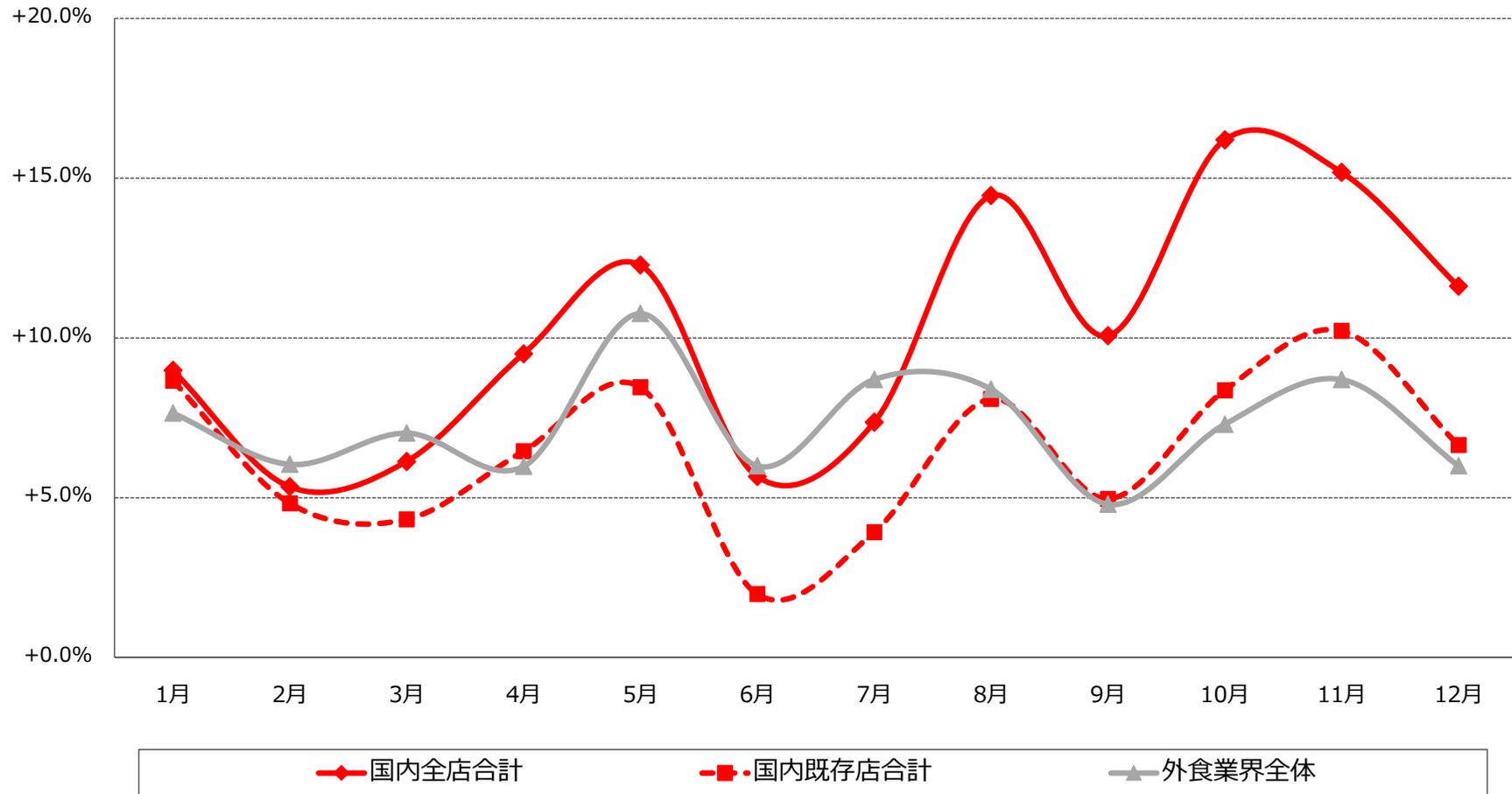
● 株主優待

- ✓ 2025/10/1より『那須パラダイスヴィレッジ』を株主優待対象施設に

參考資料

(国内) 2025年 通期 売上高前年対比率 月次推移

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。



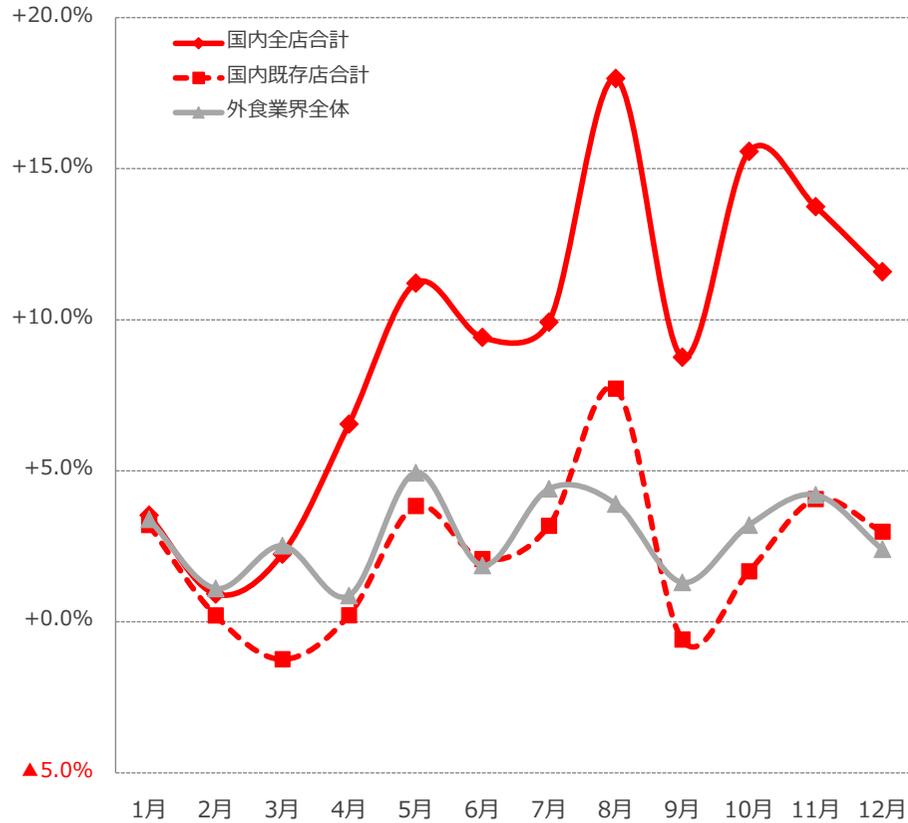
2025年12月期 通期	国内店舗売上高前年比
全店	+10.2%
既存店	+6.3%

2025年 主な出退店
 3月: 「那須パラダイスヴィレッジ」オープン
 10月: 「カフェ・ラ ボエム下北沢」オープン

※改装や休業等で一定期間稼働のない店舗は既存店より除外

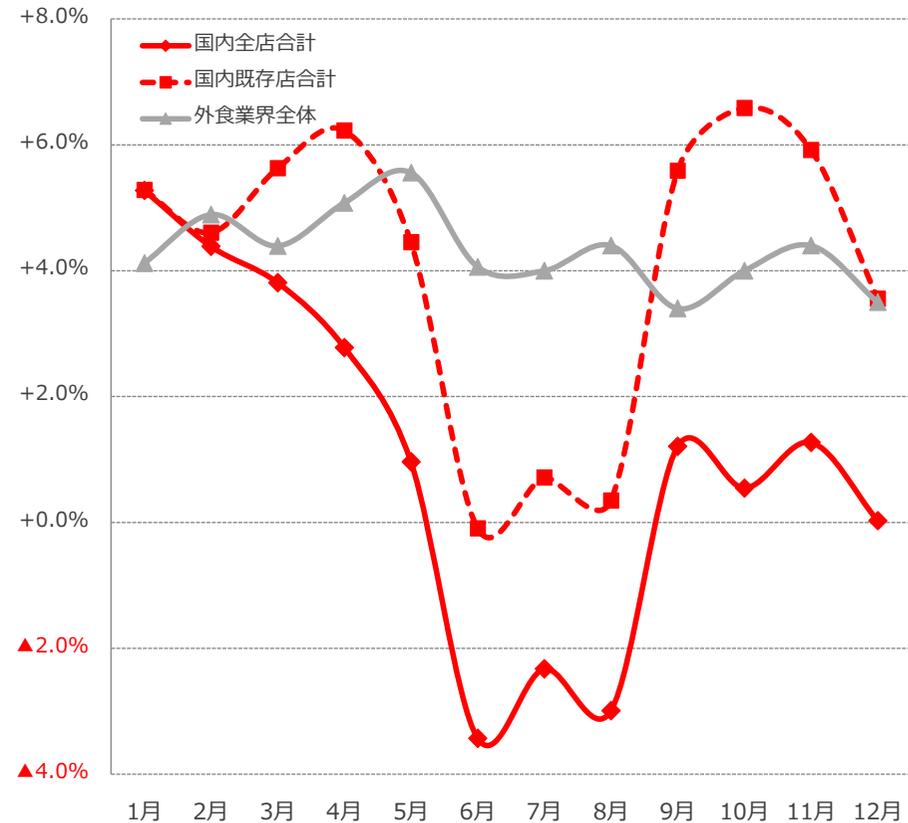
(国内) 2025年 通期 客数・客単価の前年対比率 月次推移

客数



2025年12月期 通期
全店+9.4%

客単価



2025年12月期 通期
全店+0.8%

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

(連結) 展開コンセプト

計48店舗 (2025.12月末)

カフェ ラ・ボエム	モンスーン カフェ	権 八	ゼスト キャンティーナ	ディナー店	※FC・その他 業 態
   イタリアン	   エスニック	   創作和食&寿司	  テックスメックス	 米国   6店舗	 米国   6店舗
※ 3,221百万円	2,103百万円	3,468百万円	499百万円	1,861百万円	2,505百万円
※ 24%	15%	25%	4%	14%	18%

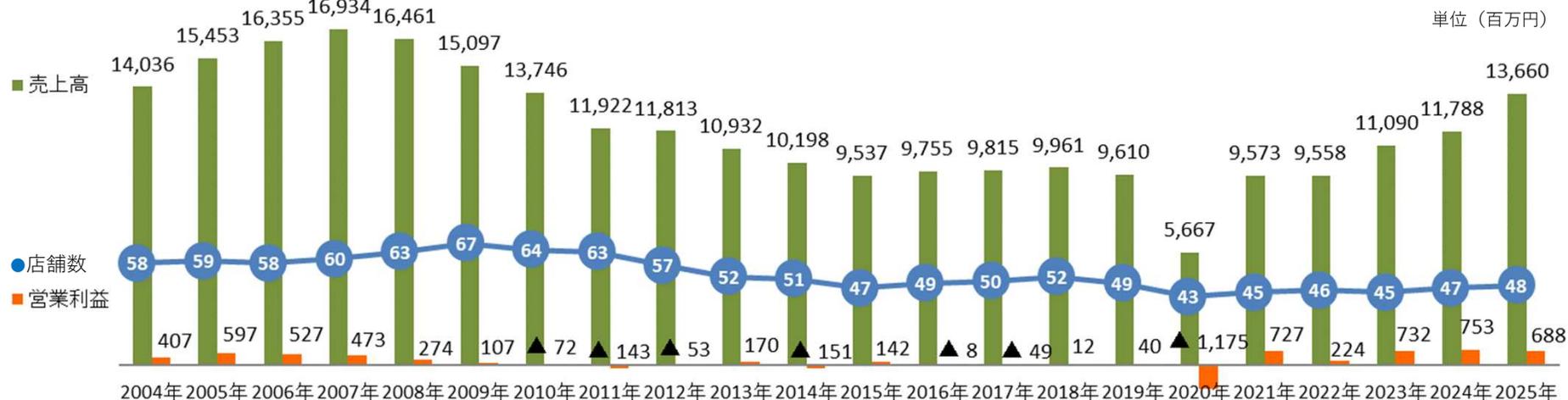
※上記金額&シェアは、2025年12月期の連結売上高とそのシェア(%)を記載しております。

※コンセプトの「FC」は、「FOOD COLOSSEUM(フードコート業態)」の略です。

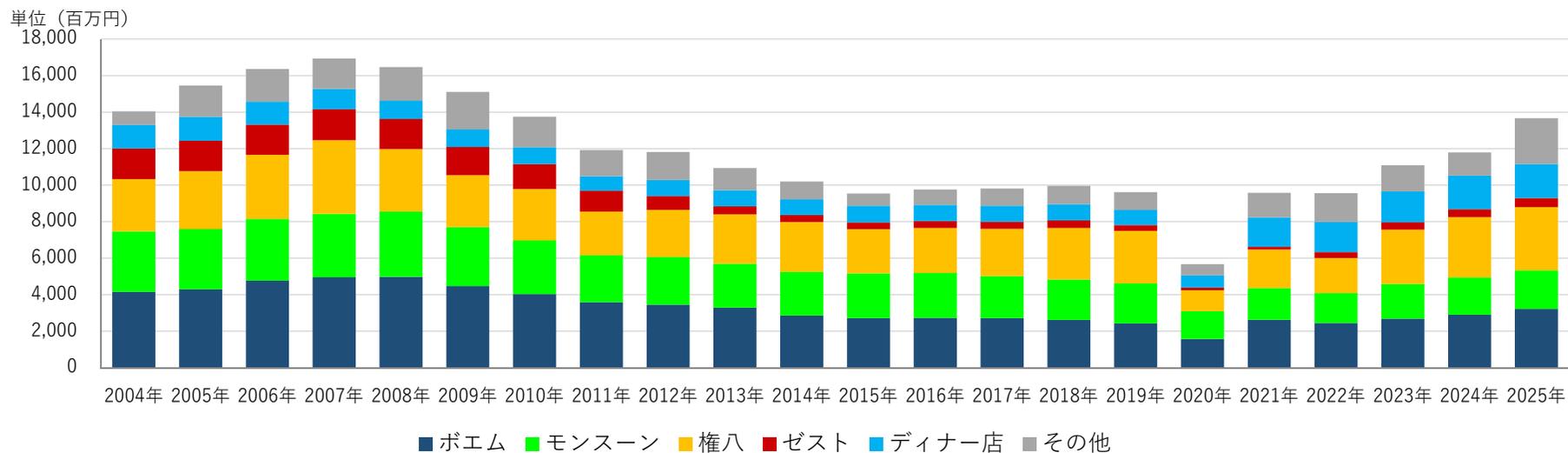
※「FC・その他業態」に含まれる「ウエディングサロン」「フランチャイズ店」は店舗数に含めておりません。

★『権八』(西麻布店)は、小泉元総理とブッシュ元米大統領との会談場所として、また映画「キルビル」の舞台のモデルとして、広く外国人に認知されている業態です。

(連結) 売上高・営業利益推移

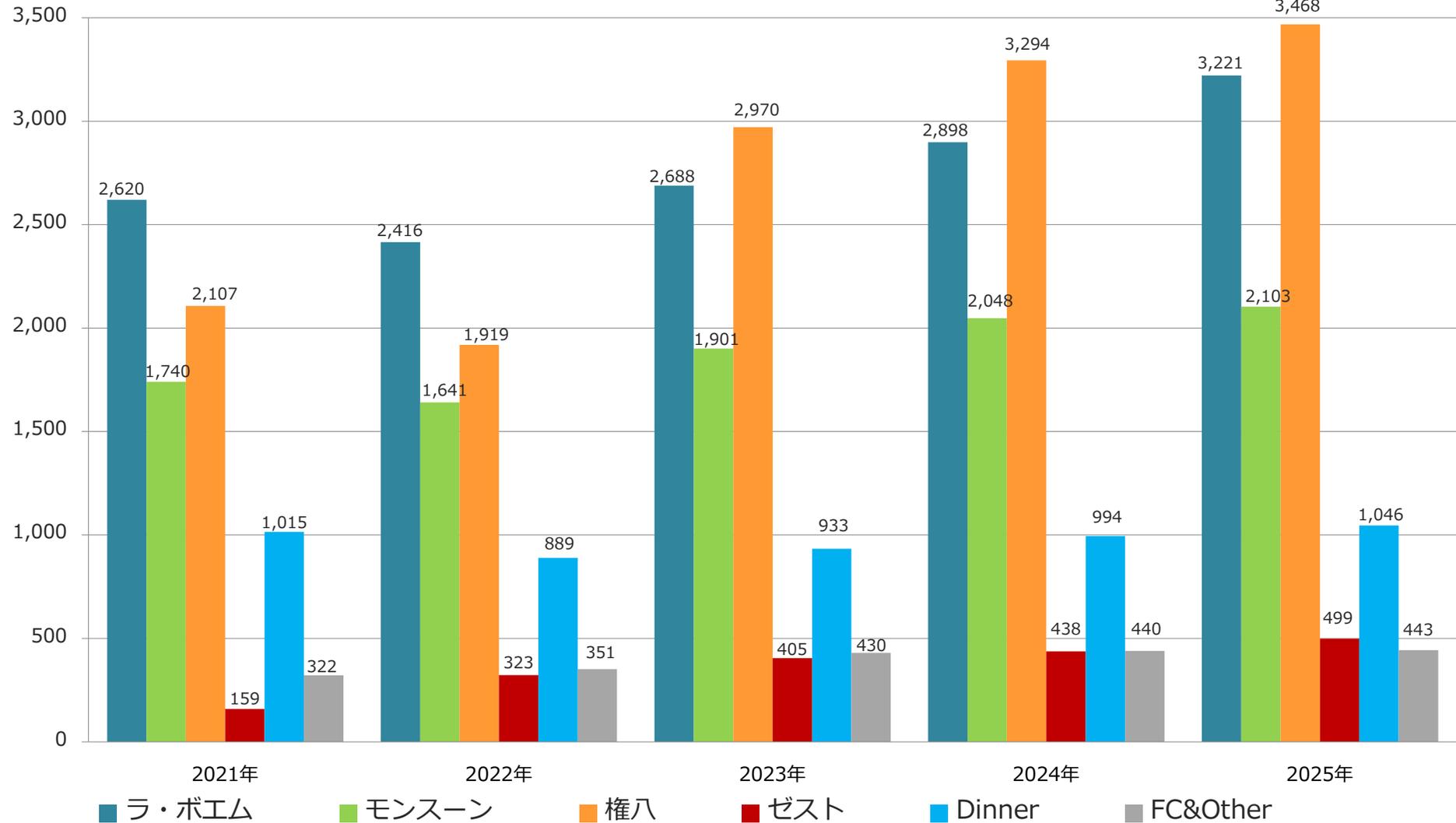


【参考】 (連結) 業態別売上高推移



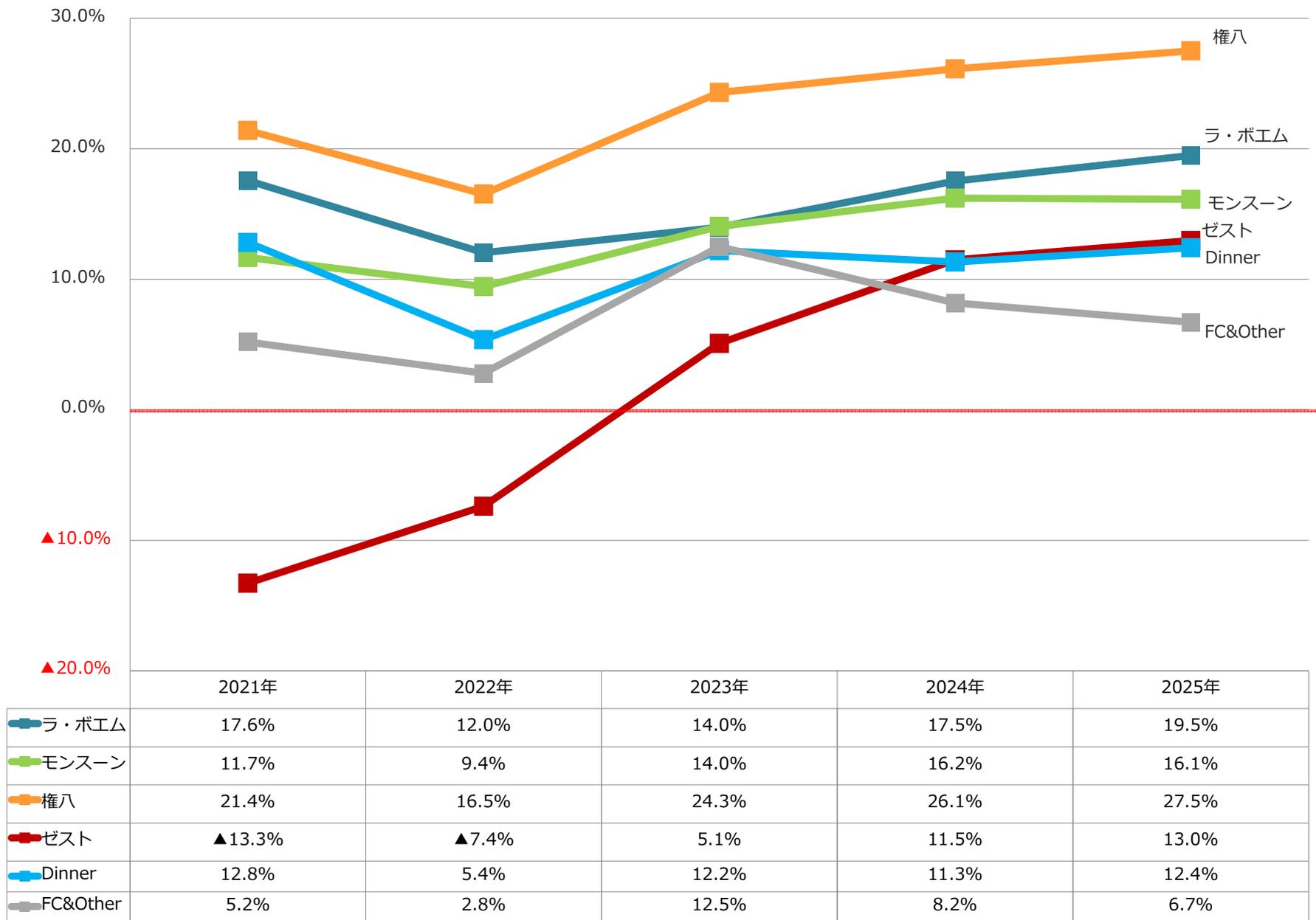
(国内) コンセプト別 売上高5期推移

(単位：百万円)



※2023年以前の実績は、2025年実績に合わせた組み替え済の数値を記載しております。

(国内) コンセプト別 営業利益率 5期推移



※2023年以前の実績は、2025年実績に合わせた組み替え済の数値を記載しております。

2025年12月期赤字店舗一覧

	店舗名	2025年 通期		備考
		売上高	売上総利益	
1	Nasu Paradise Village (那須塩原)	366,271	▲420,832	2025年3月 グランドオープン
2	ステラート (白金台)	34,698	▲46,194	
3	タブローズ (代官山)	57,070	▲42,548	
4	カフェ ラ・ボエム 下北沢	34,621	▲21,046	2025年10月 グランドオープン
5	モンスーンカフェ ららぽーと愛知東郷	62,016	▲8,517	2026年1月 閉店
6	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)	52,980	▲2,042	

(単位：千円)

会社概要

社 名	株式会社グローバルダイニング (GLOBAL-DINING, INC.)
本 社 所 在 地	東京都港区南青山七丁目1番5号
設 立	1973年10月5日
資 本 金	49百万円
事 業 内 容	首都圏を中心とするレストラン経営及び宿泊複合施設の運営
代 表 者	代表取締役社長 長谷川 耕造
従 業 員 数	単体160名 (臨時雇用者832名) 連結179名 (臨時雇用者918名)
子 会 社	GLOBAL-DINING, INC. of CALIFORNIA
主 要 取 引 銀 行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、静岡銀行、みずほ銀行、横浜銀行、日本政策金融公庫、商工中金

上 場 市 場	東京証券取引所 スタンダード市場【コード：7625】
上 場 日	1999年12月7日
発行済株式総数	10,421,300株
株 主 数	3,368名
事 業 年 度	1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年3月
株式の売買単位	100株

website : <https://www.global-dining.com/>

※2025年12月末時点

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



<資料に関するお問い合わせ>
総務管理グループ
(IR) 050-5444-9868
stock@global-dining.com